

風土記

社会人硬式野球クラブチーム

第67回

全大津野球団 (滋賀)

取材・構成/根本賢一

昭和3年に創部したクラブは、先人の意志を継承し、歴史を積み重ねている。左袖の三つの星は「仕事・野球・家庭」の並立を意味し、選手たちはその意志の下、競技に取り組む。

戦前の活躍と活動再開

全大津野球団は昭和3年(1928年)に膳所中学OBにより市民球団「全大津軍」として創部され、100年近い歴史を持つクラブチームである。昭和10年(1935年)の第9回都市対抗大会では近畿代表決定戦に進出したが、千里山鉄道倶楽部に惜敗し、本戦出場はかなわなかった。しかし、「湖国の雄」として奮闘した全大津軍の活躍は、大津市民と甲子園球場の観衆に大きな感動を与えた。

戦争により一時活動を停止していたが、昭和40年(1965年)に全大津軍のエースとして活躍していた西田善一大津市長の呼びかけにより、「全大津野球団」として活動を再開した。その背景には、大津市を本拠地として活動していた東洋レーヨン野球部の活動休止もあった。再開時に入部した山岡弘武は「当時は軟式A級チームから20人程度集められた」

と振り返る。比叡山高出身の山岡は、高校のころに湖西地区でライバルとして戦ってきた選手たちと全大津野球団で再会し、都市対抗を目指すこととなった。

全大津野球団の三つの星

活動再開後は、第1回全日本クラブ対抗大会(現・全日本クラブ選手権)に出場。開幕戦ではクラブチーム最長の歴史を誇る函館大洋倶楽部と対戦し、クラブチーム日本一を決める大会の新たな歴史を飾った。監督として指導する立場となった山岡は選手たちに「3本脚のイスは1本の脚が抜けると座ることができないようにクラブチームは「仕事・野球・家庭」を並立して競技に取り組まなければならない」と指導した。そして全大津野球団は、全日本クラブ選手権8度の出場を果たし、近畿の古豪クラブチームとしてその地位を築

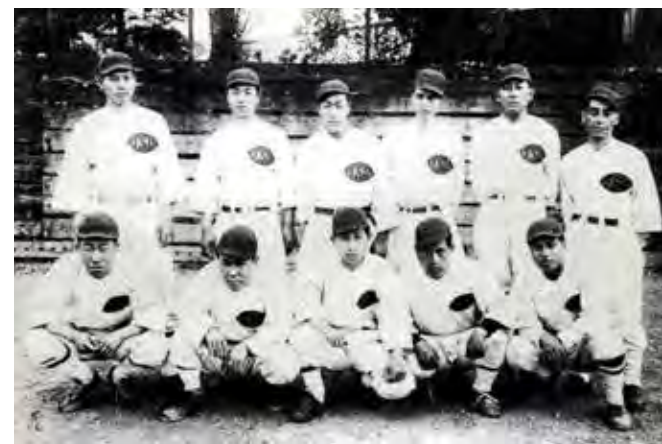


▲「3つの星」を継承する小西監督

いている。

現在、監督を務める小西昌人は現役時代に「仕事・野球・家庭」を並立するため通勤時に往路は電車、復路はランニングで自宅に帰り、下半身を強化し、限られた練習時間でも練習着は常に真っ黒だった。監督就任時にこの指導を継承するため「仕事・野球・家庭の並立」のシンボルとしてユニフォームの左袖に三つの星を付けた。クラブチームの選手は職場が違うため、1日の過ごし方もそれぞれ違う。全大津野球団の選手たちは「それぞれ違う1日でどのように野球に取り組むか」の創意工夫に挑戦している。

主将を務める33歳の野間雄介外野手は、19時に帰宅後すぐに夕食を済ませ、その後トレーニングを行う。トレーニング後は娘をお風呂に入れるなど、子育てにも積極的に参加している。共働きの妻は野間主将の姿勢を見て、当初は不思議に思っていたが、現在は、何に対しても全力で取り組む夫を応援するようになった。「大学では結果を残せなかった。おっさんでもホームランを打つことが個人の目標」と労働組合の役員の会合や残業で帰宅が遅くなってもト



▶第9回都市対抗大会近畿代表決定戦で惜敗したが、湖国の雄として大きな存在感を示した
◀昭和3年、創部時のメンバー

レーニングを行い、その伝統を継承している。

活動拠点の確保、OBの支援

多くのクラブチームは、活動拠点の確保の課題を抱えているが、全大津野球団は、大津市内に地域住民の協力を得てグラウンドを確保している。地域のつながりから遊休地活用の相談を受け「それならぜひ練習場に」と大崎俊哉部長の提案で、雑草と戦いながら1年間でグラウンドを整備した。そのグラウンドは琵琶湖の貝殻を敷き、信楽町の土を搬入し故郷の思いが詰め込まれている。グ



▲左袖の三つの星は「仕事、野球、家庭」の並立を意味する



▲1年かけて整備した本拠地「雄琴グラウンド」

ラウンド維持については、OBが現役選手の競技環境を整備するため、金銭的な支援もある。「全日本クラブ選手権ベスト4が最高の思い出」と振り返る山岡は、OBと現役の多世代コミュニティを形成しながら、現役選手の活躍を期待している。

来る日のために

小西監督は「近い将来、全日本クラブ選手権に出場し、現役選手と共に勝つ喜びを味わいたい。ベスト4以上の成績を残し、ご支援をいただいている先輩たちに恩返しをしたい」と意気込む。そして選手には「好きな野球を社会人になっても続け、創



▲第8回全日本クラブ選手権ではベスト4に進出

意工夫をして強豪チームに挑戦することを楽しんでほしい。そして企業チームを倒せる強い全大津でありたい」と語る。

全大津野球団は地域の若者たちに硬式野球を継続できる環境を提供し、歴史を築いた先人の意志を継承する。そしてOBと現役がともに喜びを分かち合える日を目指してさらに歴史を積み重ねる。



▲野間主将は「仕事、野球、家庭」の並立に取り組むチームをまとめる

古豪の伝統を継承する三つの星



▶現役を支援するOB。現役選手の活躍を期待する中でも、支援する「OBコミュニティ」を形成している



ねもとけんいち

1968年11月10日生まれ。千葉県出身。千葉日大一高・日本大・熊球クラブ。現役時代は外野手で97年全日本クラブ選手権では準優勝を経験する。2007年熊球クラブ部長に就任。その後、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科にて、社会人野球クラブチームの運営方法を研究。13年3月修士課程修了、現在早稲田大学スポーツビジネス研究所 招聘研究員として活動中。

チームデータ&チームプロフィール

全大津野球団

所在地

滋賀県大津市中央3丁目3番20号

主な戦績

全日本クラブ選手権出場8回

スタッフ

部長 大崎俊哉
監督 小西昌人
コーチ 江口智紀
マネジャー 山田敏彦、伊藤恵実

部員数

25名

昭和3年(1928年)に膳所中学OBにより市民球団「全大津軍」創部。昭和40年(1965年)に「全大津野球団」として活動を再開した。全日本クラブ選手権出場8度を誇る近畿の古豪クラブ。